

こもろ 市議会だより

No. **160**
平成27.4.22



3月定例会

6月定例会は、5月26日(火)開会の予定です

平成27年度
予算を可決

主な内容

- 27年度予算 2～3 ページ
- 3月定例会の概要 4～5 ページ
- 常任委員会報告 6～7 ページ
- 代表質問（6名） 8～12 ページ
- 個人質問（10名） 12～17 ページ
- 議員研修会報告 17 ページ
- まち再生特別委員会報告
傍聴席・編集後記 18 ページ

一般会計当初予算は過去最大額 195億5千万円（前年度比18.5%増）を議決

平成27年度の一般会計当初予算は前年度に比べ率で18・5%増となりました。歳入では、自主財源の割合が42・8%、国・県からの補助金などの依存財源は57・2%となっています。歳出では大型事業の完成もあり、普通建設事業費が全体の25・2%、義務的経費は全体の35・7%などとなっています。

一般会計予算に対し、2つの修正案が提出されましたが、採決の結果、原案可決となりました。

「改革の嵐」提出の修正案 修正案賛成討論

本格化する大型事業が市民生活を圧迫することのないように、厳しく対処するのは議会の義務。

坂の上小学校の雨漏りは、もはや「二重投資を避ける」が通用する状況ではない。漏電などの危険を考えると児童の『安全』の問題である。他の5小学校の改修も含めて必要な予算が計上されていない。

放射能の健康への影響は未だに医学的な見解すら定まっていない。将来に後悔することがないように、学校給食食材の放射性物質検査の縮減を認めることはできない。

原案賛成討論

小学校の多くが老朽化してきている中、統合・再編の動きもあり、二重投資にならないよう、学校再編計画を早急に策定することを要望する。また、給食食材の、放射性物質検査は、平成25年5月以来、約3千件行ったが、国の基準を超えたものはなく、検査機器の検出限界値を超えたものが4検体出たが、その食材は、安全が確認されるまで使用を避けている。最近では放射性物質の検出がなく、財源の有効活用のため、検査検体を減らすことはやむを得ない。

「日本共産党」提出の修正案 修正案賛成討論

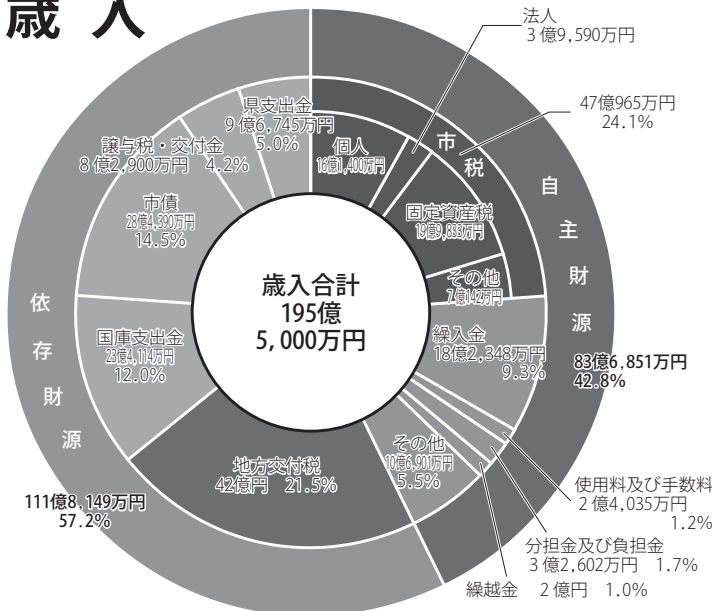
人権を尊重したまちづくりは、人権に対する学習機会の提供、相談体制の充実、人権侵害をなくす啓発を行う等、市民の人権意識を高めることが大切。市民協働で、同和団体にも共に担ってもらうことではないか。同和団体への補助金、委託料は廃止すべき。現在交付されている補助金等の行政監査を求める。

未来を担う子どもたちには、自分と違うものを排除せず、相手を理解しようとする人権意識を身につけてほしい。解放子ども会ではなく、人権教育の中で対応すべき。

原案賛成討論
人権政策費における予算は、運動団体に対する委託料・補助金及び解放子ども会の運営経費であり、適切な予算計上である。人権同和教育推進事業は、未だ差別事象などが発生し、特に最近ではインターネットを利用し

た悪質な差別書き込みがされるなど、部落差別の解消が図られていない現状から、行政の責務として、引き続き取り組みが求められる適切な予算編成であり、認めていくべきと考える。透明性のある予算執行と健全な財政運営を求め原案に賛成の討論をしたい。




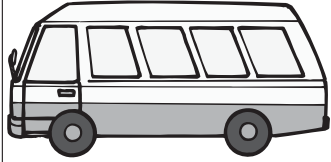



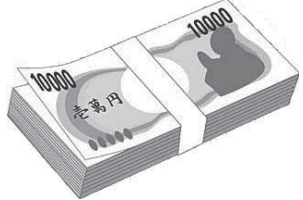
歳入



地方交付税：市の財政力に応じて、国から交付される
市税：市民税や固定資産税などで納めていただく税金
国・県補助金：事業に対しての国・県からの補助金
市債：事業を行うために市が借り入れる借金
自主財源：市が国などに依存しないで自主的に確保できる収入
依存財源：国や県などから配分される収入

一般会計予算は市民一人あたり 約45万円

政策別での内訳は、

<p>1 子育て、教育 総額 2,112,801,000円 1人あたり 48,664円 (1人あたり増減 1,871円)</p> 	<p>2 環境 2,552,303,000円 58,787円 (6,250円)</p> 	<p>3 健康・福祉 5,245,002,000円 120,808円 (2,992円)</p> 	<p>4 危機管理・生活基盤整備 2,399,351,000円 55,264円 (14,463円)</p>  <p>小諸すみれ号</p>
<p>5 産業・交流 1,747,376,000円 40,247円 (▲1,919円)</p> 	<p>6 協働 54,165,000円 1,247円 (▲593円)</p> 	<p>7 行政経営 5,439,002,000円 125,276円 (47,669円)</p> 	<p>政策別の借金返済総額 1,561,158,000円 35,958円 (▲4,187円)</p> 

※人口43,416人で計算（平成27年3月1日現在外国籍住民を含む）

各会計別予算

単位：千円

会計名		平成27年度	対前年度比
特別会計	公平委員会	258	17
	国民健康保険事業	5,423,000	613,000
	後期高齢者医療	404,402	▲17,826
	介護保険事業	3,874,100	118,400
	奨学資金	4,883	▲120
	住宅新築資金等貸付事業	46,000	10,000
	農業集落排水事業	241,300	▲4,300
	小諸公園事業	130,321	6,021
	高峰財産区	2,900	100
	御牧ヶ原財産区	2,500	230
	古牧財産区	2,500	500
	滋野財産区	410	30
	乗瀬地区市有地管理事業	107	▲63
	企業会計	水道事業	収益的収支
資本的収支			収入 631,462 408,692 支出 954,697 345,398
公共下水道事業		収益的収支	収入 1,529,521 ▲39,203 支出 1,228,024 ▲63,382
		資本的収支	収入 841,748 213,385 支出 1,458,807 166,141

一般会計基金（貯金）

※平成26年度末での見込額 8,615,490

地方債合計（借金）

※平成26年度末残高見込額 32,435,525

議論を尽くし 一般会計予算ほか55議案可決

平成27年第2回3月市議会定例会が2月24日に召集され、3月20日までの25日間の日程で開かれました。本定例会では、理事者から平成27年度一般会計予算のほか、人事5件、条例23件、平成26年度補正予算など54議案が提出されました。

なお、平成27年度一般会計予算に対しては2つの修正案が提出されましたが、採決の結果、賛成少数で修正案が否決され、議員提案2件を含め全議案を原案どおり可決しました。

主な議案

条例

◆小諸市公民館条例の一部を改正する条例

◆小諸市働く婦人の家条例の一部を改正する条例

◆小諸市文化会館条例の一部を改正する条例

◆小諸市体育施設条例の一部を改正する条例

の4条例は、施設使用料が値上げとなることから、慎重にするべきとの反対討論がありました。採決の結果、賛成多数で可決されました。

反対討論

小諸市公民館条例・小諸市働く婦人の家条例・小諸市文化会館条例・小諸市体育施設条例の一部を改正する条例について、

原案に反対の立場で、日本共産党議員団を代表して討論する。

施設使用料の引き上げを国の算定基準に当てはめていきなり行うという手法は、市民協働でまちづくりを進めていこうという市政運営に反する。よく説明して利用者の理解を得た上で改訂案を提



総合体育館

出すべきではないか。市民との信頼関係を築く上でも一度白紙に戻し、改めて検討すべきだ。

賛成討論

本案は消費税率の引き上げもあり、本市の「公共施設使用料設定基準」に基づき、全施設での使用料の算定、見直しを行ったことに伴い、条例の一部改正するものです。公共施設の管理コストの増加分を適切に使用料に転嫁しつつ、行政サービスの必要性から施設を使用する者としないう者との「負担の公平性」を確保するために、使用者には適正な負担を求めるとは必要ないこととす。激

変緩和措置もあり、受益者負担の原則から、原案どおり可決すべきと考えます。

◆小諸市介護保険条例の一部を改正する条例

第1号被保険者の保険料を、高齢者人口及び要介護認定者数増により、平均3・92%192円増額し、基準月額を4千898円から5千90円とする改正で平

成27年4月1日から施行されます。

賛成、反対討論がありましたが、採決の結果賛成多数で可決されました。

反対討論

市民は、年金の削減、軽自動車税、国保税の引き上げなど相次ぐ税の引き上げで生活は極めて大変な状況。高齢者は「年金が減らされ、次々と値上げされてはとも生活できない」と訴えています。今でも高い保険料・利用料、その上必要な介護・福祉サービスが受けられない、これでは保険料を払っても介護保険が利用できないという「保険あつて介護なし」の事態がいつそう激化し、高齢者介護が根底から破壊されかねません。

高齢者が安心して暮らせるよう介護保険料の引き上げは認められません。

賛成討論

介護保険法に基づく3年に一度の見直しで、保険料の上げ幅は平均3・92%で、これまでの最少に抑えられている。現行

9段階の負担区分を11段階にし、年間所得600万円以上の方には18・6%の増額をお願いする内容だ。低所得者に対しては、第1段階は標準保険料の半額負担、第2・第3段階は75%負担、第4段階は90%負担としている。併せて低所得者に対しては負担限度額が設けられており、持続可能な介護保険制度を維持していくためには、小諸市の財政状況を考えると、やむを得ない。

◆平成27年度小諸市一般会計予算

主な事業費は、平成27年6月完成予定の新庁舎こもろプラザ分を含め管理費8千745万円を計上。社会保障・税番号制度システム整備費4千163万円、小諸厚生総合病院への新築移転のための補助金2億3千49万円、平成28年1月完成の新焼却施設の運営費として6千639万円、しの鉄道へのバリアフリー化整備負担金866万円などとなっています。

3月定例会概要／議案に対するの表決状況／請願・陳情の審査結果

◆平成26年度小諸市一般会計補正予算（8号）

水明小学校の吊天井、バスケットゴールなどの落下防止のための耐震対策工事費4千86万円が計上されました。

◆平成26年度小諸市一般会計補正予算（9号）

国の緊急経済対策により補助事業が一部前倒しで予算計上されました。主な事業は、新庁舎等整備事業に2億9千411万円、新焼却施設建設事業は、15億5千629万円です。

◆平成26年度小諸市一般会計補正予算（10号）

国において「地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策」により、1億2千400万円の補正予算が承認され、高地トレーニングエリア構想推進事業費に500万円、プレミアム付商品券発行事業に7千600万円などが計上されました。

請願

請願27-1 議員定数を現在の19名から15名まで削減を求める請願

不採択とする委員長報

告に対して議員より、本会議での起立採決を求める動議があり、了承され採決を行いました。委員長報告どおり不採択と決しました。

人事

今定例会では、次の委員会の委員が選任同意されました。

●小諸市等公平委員会 委員1名

●高峰財産区管理委員会 委員7名

●御牧ヶ原財産区管理委員会 委員7名

●古牧財産区管理委員会 委員7名

●小諸市滋野財産区管理委員会 委員7名



表決の様子

議案に対するの表決状況

本欄に記載以外の議案については全会一致で原案可決されました。○は賛成、●は反対を表しています。

議案名	高橋公	土屋利江	掛川剛	小林一彦	丸山正昭	山浦利夫	早川聖	竹内健一	柏木今朝男	神津眞美子	清水喜久男	依田善典	中村憲次	小林重太郎	田中寿光	福島鶴子	柏木博美	林稔
議案第7号 平成27年度小諸市一般会計予算に対する修正案(改革の嵐) ※1	●	●	○	●	●	●	○	●	●	○	●	●	○	○	●	○	○	●
議案第7号 平成27年度小諸市一般会計予算に対する修正案(日本共産党) ※1	●	●	○	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●
議案第29号 小諸市公民館条例の一部を改正する条例 ※1	○	○	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	●	○	●	●	○
議案第30号 小諸市働く婦人の家条例の一部を改正する条例 ※1	○	○	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	●	○	●	●	○
議案第32号 小諸市文化会館条例の一部を改正する条例 ※1	○	○	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	●	○	●	●	○
議案第33号 小諸市体育施設条例の一部を改正する条例 ※1	○	○	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	●	○	●	●	○
議案第40号 小諸市介護保険条例の一部を改正する条例 ※1	○	○	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○
請願27-1 議員定数を現在の19名から15名まで削減を求める請願 ※1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	○	●	●

※1 議長は表決には加わりません。

請願・陳情の審査結果

種類	件名	氏名	結果
請願	議員定数を現在の19名から15名まで削減を求める請願	小山盛夫外4名	不採択
	小諸駅にエレベーター設置を求める請願	渡邊實早恵外5名	採択

3月9・10日
経済建設
委員会
報告

■請願27の2号小諸駅にエレベーター設置を求めらる請願

小諸駅のバリアフリー化、特にエレベーターの設置は観光面からも環境改善が必要である。小諸駅のホームが狭いので、ただエレベーターを設置すれば済むということではなく、他の問題もあり難しいと思うが、この計画を頓挫することなく、利便性の高いエレベーター設置を望みたい。

当委員会では全会一致にて請願を採択した。

■平成26年度小諸市一般会計補正予算(第9号)

質疑

農業費について「あぐりの湯」の管理委託料が、補助金一千万円増だが、収支不足を小諸市が負担し続けていくのか。

答弁

あぐりの湯からの入湯

税を50円に減額した場合の試算をしたが、約2千万円施設収入が増え全体の収支は赤字とならない。今後は入湯税の軽減も検討課題の一つと考えている。

■平成26年度小諸市一般会計補正予算(10号)

質疑

ニホンジカ等活用研究事業の委託料の内訳は何か、広域で検討できないか。

答弁

ニホンジカのペットフードとしての試作製品の、製造業務委託経費ならびに試作製品の成分委託費を450万円程度見込んでいる。また、解体した肉を保存し、解体業者に原材料として送るため300万円を予算化したものである。県では捕獲の肉をジビエ料理として食品流通させようと考えているが諸問題があり、今回は小諸市から広域への課題としても研究を進めたい。

質疑

プレミアム付商品券発行事業は商工会議所扱い

であったが、今回は商品券を利用できる取扱店をどの様に選定をするのか。

答弁

事業実施者は公募でプロポーザル方式にて選定する。また、取扱店は会議所の会員に限っていたが、今回は国からの交付金のため市内全域から参加希望により決定したい。

■平成27年度小諸市一般会計予算

質疑

耕作放棄地の解消目標を毎年5ヘクタールとしているが、中山間地域での集積は難しいのではないか。

答弁

西小諸では圃場の形状が悪く苦慮しているが、平成26年度以降ワイン用ブドウ等、果樹栽培での農地活用で利用集積を進めてきている。国が目指すような集積は望めないが、効率の良い集積を進めていきたい。

質疑

松くい虫対策事業の被害分布状況と対応はどうか。

答弁

伐倒くん蒸処理が必要な被害木は1千500本で年間処理量は600本程度で予算計上をしている。伐採補助金の優先順位は受付順ではなく、住宅被害、電線に接し損傷の恐れ等、危険対応を基準に対応していきたい。

質疑

地域公共交通網形成計画とはどのような計画か

答弁

多極型コンパクトシティまちづくりの公共交通を絡めた計画策定を行っていく。

3月10・11日
文教総務委員会
報告

■小諸市市民活動・ボランティアサポートセンター条例

質疑

現条例を、小諸市市民活動・ボランティアサポートセンター条例とする理由はなにか。

答弁

「小諸市自治基本条例」を考える市民協議会」からの提言や「小諸市市民協働推進市民会議」における討論等を踏まえ、指定管理者方式に限定されている管理方式を、直営方式や業務委託方式も可能とし、合わせて市民活動の定義、市民活動団体等の登録について明確化を図るための改正です。

■小諸市市税条例の一部を改正する条例

質疑

改正理由はなにか

答弁

昨年12月の国保税の税

率改正に伴い、低所得者への軽減措置である軽減額を改正するためです。

■小諸市公民館条例の一部を改正する条例

質疑

条例改正により使用料が1.5倍になるが、どのように算出したのか。

答弁

消費税率の引き上げに伴う、公共施設の使用料の増加分を使用料に転嫁するため、公共施設使用料設定基準に基づき各室ごとに使用料を算定した。

■平成26年度小諸市一般会計補正予算(第10号)

質疑

高地トレーニングエリア構想での業務委託料の内容はどうか。

答弁

市民の健康増進に向けたウォーキングの推進に焦点を絞り、有名な指導者を招き健康づくりの機運を高めるための委託料です。

質疑

梅花教育再構築事業の内容はどうか。



ニホンジカ

答 弁

魅力ある指導者育成事業交付金での事業と同じで、国の緊急経済対策により地方創生先行型事業を早急に行うため事業名を変えて取り組むものです。

■平成27年度小諸市一般会計予算

質 疑

新庁舎における土地建物貸付収入はなにか。

答 弁

公営企業会計事務所、職員労働組合、売店からの収入です。

質 疑

南城公園プールの運営状況等はどうか。

答 弁

南城公園プールは漏水



坂の上小学校の雨漏り

しており、今年度はプール全体の営業を見合わせることも考えられる。

質 問

学校給食食材放射性物質測定事業の委託料を、毎日一検体から週一検体とした理由はなにか。

答 弁

これまで毎日8校の食材を検査し、約3千検体を検査して来たが、国の定める基準を超えるものはない。また、2年間検査を実施し、同じ産地の食材を使用しているため、これまでのような検査は必要ないと考える。

質 疑

坂の上小学校、菅原中学校の雨漏り対策が進まない理由はなにか。

答 弁

屋根をかける工事で9千万円、シート工事で4千300万円の見積で、多額の費用をかけると将来の学校改築と合わせて二重投資になるため、現在は部分的な補修で対応している。

3月11・12日
福祉環境
委員会
報 告

■平成27年度小諸市国民健康保険事業特別会計予算

質 疑

保険財政共同安定化事業拠出金が前年度比で6億円増額となっているが理由はなにか。

答 弁

平成26年度までは30万円を超え80万円までの医療費につき対象とされていたが、平成27年度は国の制度改定により、30万円の下限額が見直され0円から80万円までの医療費が対象となった。算出根拠は過去3年間の医療費の実績により算定した。

質 疑

■平成27年度小諸市水道事業会計予算

質 疑

上水道事業基本計画策定状況はどうか。

答 弁

計画策定にあたり、可能な限り住民との合意形成を図っていく。平成27年度は基本調査を行い、配水計画、水利用計画など骨格の部分を作成し、平成28年度に住民を交えて計画策定を行う。

■平成27年度小諸市公共下水道事業会計予算

質 疑

起債の償還状況はどうか。

答 弁

起債償還シミュレーションでは、平成35年度には平成26年度末の予定起債残高の約半分の65億円となる見込みである。

■平成27年度一般会計予算

質 疑

保健衛生費の在宅医療連携拠点事業について事業の進捗状況はどうか。

答 弁

平成25年度より県の補助を受け事業総額3千万円で行っている。医療と介護の連携を図ることを目的として、まずは関係



介護予防教室の様子

者同士の基盤づくりを行い、平成26年度には軽井沢町・立科町・小諸市と

で医療・介護の関係者で協議会を発足することができた。平成27年度では、

地域の医療・介護の資源調査を行い、在宅医療が進められるよう中身の議論をして行く。

質 疑

地域医療従事者医師奨学金の貸付状況はどうか。

答 弁

今年度は5名に対して貸付を行った。この制度は医師確保のため、小諸厚生総合病院に医師として従事しようとする医学

生に対して貸付を行うもので、一定の年数を勤めると償還が免除される制度である。

質 疑

償還が免除された医師に出来るだけ長く就業してもらえよう市でも取り組んでほしい。

答 弁

目的が長く勤務してほしいとのことであるので、市からも病院に呼び掛けを行う。

小諸市の将来像——子育て・教育と地域ごとの

「コミュニティーを核として描くべき



改革の嵐
小林重太郎

質問

会派「改革の嵐」は、小諸市は小諸ならではの特色ある教育と子育て環境の整備、そして小学校の改修・改築を中心とする地域ごとのコミュニティー重視を核として将来像を描いていくべきと考える。市長として、この3年間、教育環境の整備において十分手応えはあったか。

市長

何分予算というものはある。十分と言われれば、十分ではなかったかなというふうには思っているが、できる範囲ではしっかりやっているつもりだ。

質問

小諸市の特色ある子育て・教

育政策とは。

教育長

総合計画での目標は、自ら学び、考え、理想に向かって行動する子どもたちを育てることにある。

質問

特色ある教育を核とした将来の小諸市の姿は、第5次基本構想の中で強く取り入れられるのか。

市長

市民協働で作っていく中で、子どもを中心にして結びつきを強めていくような形のものであれば良い。

質問

高地トレーニング構想は、市民全体にメリットがあるという姿が見えてこない。市民より有名アスリートを優遇するような政策は認められない。

市長

市民の健康長寿を広げていきたい。それで社会保険費の軽減もできていくのではないか。

国保税引き上げによる市民負担を

どう捉えているか



日本共産党
柏木博美

質問

第5次基本構想策定に向けた市民参加の取り組みとして「地域のお宝さがし」が行われたが、その成果はどうであったか。

市長

各地区で出された地域の魅力や資源や課題などは、整理して成果としてまとめ、その活かし方や課題の解決の仕方などを市民と共に考え、地域別まちづくり方針としてまとめていきたい。

質問

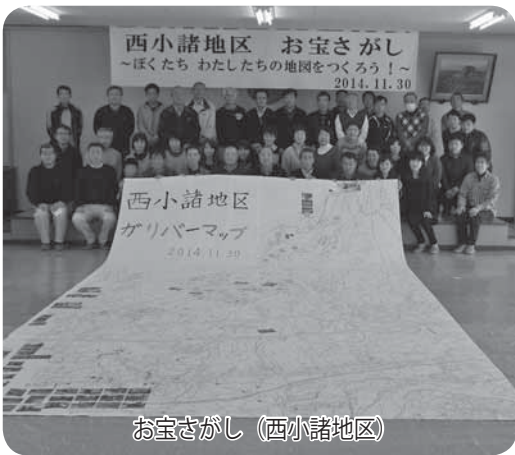
小諸市では、昨年の12月議会でも国保税の引き上げが議決された。年金引き下げ、物価上昇、消費税増税などで市民生活はますます厳しくなり、税負担が重くなっている。どのように捉えているか。

市長

保険料の改定をしないままでは基金が枯渇してしまうという状況から、平成27年度以降の国保運営に必要な財源確保のため、国保加入者に負担増をお願いするもので、重く受け止めているが、やむを得ないと考えている。

質問

国保税はなんとか納めても病院に行けないという市民もいる。



お宝さがし (西小諸地区)

納めやすい国保税にすべきではないか。

民生部長

今定例会では軽減措置の拡大の条例改正も提案している。今後納税相談、医療費の委任払いなどいろいろな工夫していきたい。

意見

軽減措置があっても大変な市民はいる。一般会計からの繰り入れについても、負担軽減の再検討ということで要望しておきたい。

質問

人権政策の同和差別解消については、特定の運動団体に補助金を出して解決するものではなく、同和団体への補助金等の廃止を主張してきた。市民協働のあり方として、同和団体の方にも共に担ってもらうことではないか。

市長の見解はどうか。

市長

補助金を出したから良いとは思っていない。一番重要なのが同和問題だ。補助金なしで運動していきたいと言うにはまだ早いと感じている。

**小諸市の行政運営の課題
小諸市の防災について**

質問

浅間山麓高地トレーニングエリア構想の現状と今後について。

市長

大きな期待感とは裏腹にグラウンドデザインが明確にならないまま現在に至るが、ここに来てアサマ2000パーク内にクロスカントリーコース整備と宿泊施設の改築の検討も進んでいる。

質問

道路修繕等の地区要望の公平性はどうか。

市長

人口の増減による区の状態は、世帯数格差で20倍を超え、事業割り当てによる不公平感が増大している。全体の要望をまとめ



新公会
清水喜久男

た中で、緊急性、必要性、投資効果などを点数化し、事業実施に反映させている。

質問

道路の補修等は、限られた予算内で行うことから各区3箇所とのことだが、各地域により違いがあるので、人口、道路の長さ、面積を加味して修繕箇所数を検討すべきでないか。

建設部長

そのようなことを加味して修繕している。各区より提出された要望と道路管理者として緊急性等を含めて進めている。

質問

小諸市の土産品となる特産品の開発はどうか。

市長

開発は長年の課題であり、これまで様々な商品開発がされたが、いまだ市民や観光客に広く認知されている商品は少ない状況だ。品質、デザイン、包装等に改良を加え、特産品と認知されるよう今後も取り組んでいく。

質問

佐久平駅併設のプラザ佐久での土産品販売の進展はどうか。

市長

プラザ佐久は佐久地域エリア全体の情報発信拠点施設であり、地域振興に結び付くため、設置者である佐久市に広域市町村の展示販売をお願いしてきたが、今般、佐久市長より出品を募集する旨の通知があった。4月から拡張工事を行い、6月に商品を入納する予定である。

質問

消防団員への負担を軽減するため、非常の際等に警鐘楼に登らなくてもよい自動打鐘装置を全詰所に設置できないか。

総務部長

装置は一式17万円なので、希望があれば考慮したい。

質問

詰所建替えの補助金は30万円だが、建替えとなると1千万円以上となり地元負担が大きいので増額はできないか。

市長

一昨年200万円を30万円とした。建築費等が上がっているので検討したい。

副市長の選任について 平成27年度施政方針から



市誠会
山浦利夫

質問

副市長の職責や役割、選任の進め方はどうか。

市長

副市長という職に求められるのは、単なる調整能力ではなく、市長とともに政策を推進していくという志であり、職員をまとめ政策を実現に導くことが大変重要だと思っている。政策の推進を図る上では志を同じくする副市長の存在は欠くことはできないので、可能な限り早く選任同意の提案をしたい。

質問

安全・安心な地域づくり（防災・減災）についてはどうか。

市長

安全・安心な地域づくりは行政における最も基本であり、地域の安全・安心なくしては、住民生活は成り立たない。防災設備の整備等ハード対策はもちろん、支え合いマップ作りや防災士の育成、自主防災組織による防災訓練の実施等、ソフト面にも力を注ぎながら、防災・減災対策の充実を図っていきたい。

質問

自主防災組織や自衛消防等への支援の充実はどうか。

総務課長

安心安全なまちづくり条例での防災に対する補助とコミュニティ助成事業による補助の二つの制度がある。財政厳しい中ですぐにはいかないが、今後研究していきたい。

質問

コンパクトシティの形成を今後どう進めていくのか。

市長

少子高齢化・人口減少社会に



市役所敷地一帯の工事の様子

において、暮らしやすく持続可能な社会を構築するため、コンパクトシティの形成は必要不可欠である。現在、その一歩として市役所敷地一帯及びその周辺における中心市街地の都市基盤整備を進めている。

今後は、公共交通システムへの構築や歩いて暮らせる範囲の中に生活に必要な機能が集積されるコンパクトな都市構造への転換に取り組むことが必要であることから、立地適正化計画の作成を進める。

質問

「まち・ひと・しごと創生の

ための総合戦略」はどうか。

市長

国の総合戦略は、人口減少の克服と地方創生の確実な実現を目指したものである。

市としての総合戦略は、「小諸市まち・ひと・しごと創生推進本部」を中心に国の総合戦略に掲げられている4つの基本目標①安定した雇用の創出②地方への新しい人の流れを作る③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる④時代に合った地域を作り、地域と地域を連携する」という4項目を基本的な方向性として、平成27年度に策定を予定している第5次基本構想と連携・連動させながら総合戦略の策定を進めていく。

質問

大胆に思いきった政策で特色をもって取り組むことでより効果が期待できると思うが。

市長

これは中長期的な計画になるかと思っている。効果が少しずつ表れてくるような施策になるかと思うので、一遍に財政をつぎ込んでと、いうものではないと思う。

平成27年度施政方針について



創正会
田中寿光

質問

「浅間山麓高地トレーニングエリア構想」について新たな動きとは何か。

市長

最近の新たな動きとして、高峰高原の2千メートルエリアでは、渡辺パイプ株式会社が5月からアサマ2000パーク内に全長2千500メートルのクロスカントリーコースの整備をする。9月には供用開始ができるようにする計画となっている。

また、アサマ2000パーク内の宿泊施設についても一部老朽化していることから改築計画の検討を進めているとのことである。

質問

「六次産業化」について具体的な第一歩を踏み出すとは、どのような取り組みか。

市長

農業者、二次・三次産業者が連携して商品開発や販売に携わるネットワークの構築と、その中心となる人材の育成は簡単には進まないが、平成26年度では民間の新たなグループによる農産物直売所が開設されるなどの動きも出てきた。

これまでの取り組みを引き続き推進するとともに、農業者や民間事業者による六次産業化の機運を市が後押しするために、平成27年度では民間活力を導入しながら拠点となる施設や用地の確保等について具体化したいと考えている。

質問

第5次基本構想を「地域経営のための計画」としているが、地域の各主体の役割は、どう示していくのか。

市長

まちづくりの最高規範として「小諸市自治基本条例」では、まちづくりの担い手として市民、市民活動団体、区、事業者、市議会、市の執行機関などの役割や責務を規定しており、これが各主体の役割と考えている。

また、政策分野別まちづくり方針において、分野別に設定する数値目標やめざす姿を達成するために、各主体が担う、より具体的な役割である。この役割を政策分野別の現状と課題、方向性といった分野別の育成に際して自治基本条例に規定する担い手別に示していきたい。

質問

「地域のお宝さがし」は課題解決方法のきっかけになったのか。

市長

「地域のお宝さがし」は第5次基本構想の策定にあたり、できるだけ多くの市民の皆様により主体的に策定のプロセスに係わっていただくきっかけづくりとして行った。

実施した地区のすべてにおいて



て地域の魅力や資源を生かし、課題解決の方法を考えるきっかけになったかという点も必ずしもそうとはならなかった。

しかし、一定の成果であると受け止め反省材料として次の取り組みに生かしていく。

今後、地区ごとの将来像や将来目標などを話し合う懇談会を予定しており、その中で当初の目標が達成されるよう取り組んでいく。

質問

「小諸市まち・ひと・しごと創生推進本部」の体制と状況はどうか。

市長

市の政策会議のメンバーで組織した。小諸市としての人口ビジョンと総合戦略を策定して推進を図っていくが、推進本部は庁内の最高意思決定機関であり、戦略推進の司令塔となるものである。

代表質問

我がまちの「創生」

戦略の方向性と推進に向けて



公明党
柏木今朝男

質問

我がまちの「地方版総合戦略」策定の方向性はどうか。

市長

安定した雇用創出と新しい人の流れを作る。若い世代の結婚、出産、子育ての希望を叶える。時代に合った地域を作り、安心な暮らしを守る。これを基本的な方向性として立案していく。

質問

「まち・ひと・しごと創生戦略」を立てるための人材の確保をどのように考えているのか。

企画課長

コンシエール制度の活用と、広範囲な意見集約を図っていく。

質問

創生推進本部の運営で周辺自治体との連携の考え方はどうか。

企画課長

広域的に対応すべき課題は連携していくが、これからの計画となるので検討していきたい。

質問

浅間山麓高地トレーニングエリア構想の早期実現に向け小諸市が主導的立場に立って取り組み強化すべきと考えるがどうか。

市長

日本のみならず世界に小諸の名前を知ってもらおう大きな一つの施設であり、特に小諸市民の健康増進、百歳長寿をめざすという原点のためにも両立させながらしっかりと進めていきたい。

意見

50年後にどんな地域を残したいのか、それを考えるのは私達の責任である。眼前の課題だけではなく50年後100年後の我がまちについてしっかりとビジョンを持って、それに向かって着実に前進をさせていきたい。

個人質問

平成27年度当初予算・事業方針と人口減少歯止め策の具体案はあるのか



竹内健一
(創正会)

質問

平成27年度事業策定に向け、今までの取り組み評価はどうか。

市長

平成25年度は特別戦略会議・全職員との意見交換を開催し職員の意識改革・政策研究を行い、平成26年度は公募市民との学習会・地域のお宝探しを実施した。27年度末迄には市全体・地域・政策別の分野に分け第5次基本構想の最終ビジョンとしていく。

質問

地方創生交付金での活用事業と市独自の施策はあるのか。

市長

今定例会中に追加補正予算を提案する予定だ。また各事業が一

過性の対症療法にならないよう市の実態に合わせ最大限の成果を上げる工夫と効果を検証し継続的に改善策を講じていく。

質問

当初予算の優先順位はどうか。

市長

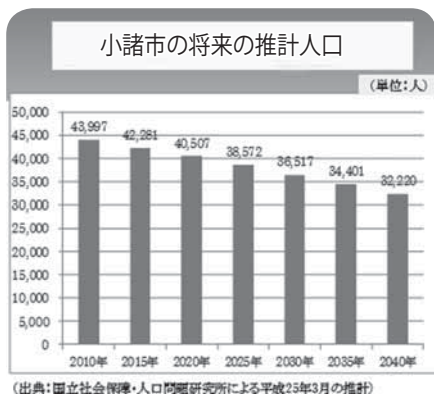
コンパクトシティの実現に向けた公共交通・子育て教育・危機管理防災等の重要課題の施策内で位置付け予算編成を行った。

質問

人口減少歯止めの具体策は。

市長

地方創生型交付金を財源として補正予算を提案していく。



小諸市総合計画と

柳田市政のあり方について

質問

小諸市総合計画に、手法としてマニフェストの反映が明記されている。市長には「今さら」の感かもしれないが、「今でも」自分のマニフェストでない事業を推進してきた市長に、不信感を抱く市民は少なくない。これをどう説明するか。

市長

市長になり、多くの市民の考えを知った。計画が、そのまま進めなければならぬところまで行っている事を知った。

質問

やむを得なかったなら、やむを得なかったと、支援した多くの市民に、真摯に、自分の言葉



福島 鶴子
(改革の嵐)

で誠心誠意、話すべきではなかったか。市政への信頼が崩れた。

市長

全ての人に伝えるのは難しい。組織の中では申し上げた。

質問

近隣市町村からも「前代未聞」と話題になり、小諸市政への印象にもなっている。これについてどう考えるか。

市長

私は、それは感じていない。

質問

浅間山麓高地トレーニング構想が、基本計画、実施計画に全く載っていないのはなぜか。

総務部長

市長公約にはないが、市民の健康づくりという面で、力をおいている。

質問

予算づけが、全くないのに、話題が先行しているのはなぜか。

市長

まだ、実際には予算づけをすするところまで進んでいない。

小諸市総合計画の位置づけと推進について

梅花教育の推進について

質問

総合計画に対する市民の認知度はどうか。

市長

市民の皆様の中で広く知られ、認知されているとは言えない状況であったと思う。今後は、策定プロセスへの市民の参加や、わかり易い周知方法をとるなど改善を図っていきたい。

質問

第9次基本計画の進捗状況に関する情報の公表はどうか。

市長

平成25年度の施策や事業について評価した後の成果説明書は、一般への公表は行っていなかった。素直に反省し、直ちにホー



小林 一彦
(市誠会)

ムページへの掲載、行政情報コーナーへの備付等の対応をする。今後はこのようなことの無いよう速やかに公表したい。

質問

成果目標に掲げている全国学力調査の達成状況について感想、及び今後の対応は。

市長

全国学力調査は、国語と算数、数学の2教科の学習の定着度をはかる、あくまで一つの指標であって、これが全てではない。

教育委員会、現場の先生方には、梅花教育の真髄である数字に測れないものを大切にしながら実践し、次世代を担う子どもを育ててほしいと思う。

学校教育は、知、徳、体のバランスが取れた子どもたちを育てることが目標である。学校の主体性を大事にし、今進めている事業などを充実させ児童生徒、先生方を支援していくことが成果につながるかと考えている。

教育長

学校教育は、知、徳、体のバ

バランスが取れた子どもたちを育

小諸消防署移転計画・防災士の位置づけ 区要望箇所の工事について



丸山正昭
(市誠会)

認定資格のみであり、受講者が少ない。位置付け(役割)を考えたかどうか。

市長・総務部長

区長総会等で、改めて防災士名簿を配付し、区内の防災士を認識していただき、防災士が活躍できるように要請したい。また、魅力あるものにしていくために横のつながりをつくる連絡会等を考えている。さらなる防災士の知識・技術の向上と防災士の位置付けを明確にしたい。

質問

区要望箇所の工事の受け入れについて、今後はどうなるのか。

市長・建設部長

平成26年度より実施可能な数字に近づけていくために、各区の工事要望箇所を3か所に絞っていた。今後は、市全体で取りまとめた上で、緊急性、費用対効果等を考慮して優先順位を定め、公平性を保ち進める。さらに区長等の意見を聞き、より良い方向に進めていきたい。

質問

防災士の位置付けが無いため

老朽化している小諸消防署移転計画の進捗状況はどうか。

耐震診断で倒壊の危険性があると判断されたため新築するが、市庁舎などの整備が完了した後、建設する。建設場所は未定。必要な建物の設備・面積のたたき台ができあがった段階だ。今後、女性消防職員のための設備も必要なことから、面積は現在の庁舎より増える見込みである。

また、敷地面積や形状によっては、庁舎と訓練棟をそれぞれ単独で建設する検討が必要だ。

「天池総合グラウンドの埋め立て」と 「小諸市新交通システム」について



中村憲次
(新政会)

言明しているがどうか。

建設部長

国・県と調整をしてきたので、できるだけ万全を期して地元の皆さんに納得いただけるように3月中に調整をして進めたい。

質問

小諸市新交通システムとNPOの福祉有償運送との連携について、競合等の懸念はないか。

建設部長

厚生課と福祉有償運送についての話し合いを持っており、要介護者・身体障害者等移動困難者と健常者のすみ分けはできると思う。十分説明して進める。

質問

浅麓環境施設組合から余剰人員として派遣されている職員について、今後の対応はどうか。

環境水道部長

余剰人員は喫緊の課題である。27年度は小諸市が3名、御代田町・軽井沢町は1名ずつ受け入れる。佐久市は分担金負担をすがるが派遣職員の受入れはしない。



天池総合グラウンド

質問

天池総合グラウンドの埋め立て工事について「地元市民の理解」は得られたのか。国交省では地元の理解が得られなければ「埋め立て工事は進めない」と

保育園、学校給食の 安全・安心の取り組みについて

原発に頼らない自然エネルギーの積極的活用について 公共交通システムのありかたについて



土屋利江
(公明党)

質問

給食食材の放射能物質検査の取り組みについてはどうか。

教育長

各学校、1日1品目の食材を検査に出しており、小中学校での放射能検査の内容が保育園にも伝わっていて、小諸市のホームページにも公表している。

質問

地産地消の推進はどうか。

教育長

保育園では地元食材を給食に取り入れ、市内直売所で新鮮で旬な野菜や果物を仕入れている。小中学校の地元食材の使用率は55・9%で小諸産の小麦「ゆめかおり」のパンを提供。米は

東信地域産を100%使用している。

質問

食育の取り組みはどうか。

教育長

保育園では、月に1日、食育の日をつくり、園ごとの特色を生かした食育活動を行っている。小中学校では、学校給食を教育の一環として捉え、食に関する指導や学校給食協議会で食育の推進をしている。市内では3人の栄養教諭が配置されている。

質問

アレルギー食の現状と対応は。

教育長

保育園のアレルギー対応の園児は7園で39人。小中学校の児童・生徒は119人である。原因となる食材を除いた除去食や代わりの食材を使い、見た目もできるだけ通常食に似た代替食をつくっている。さらにアレルギー対応食は専用のトレーに配膳するなど通常食とは区別し、調理員や関係職員と情報共有して細心の注意を払っている。



掛川剛
(日本共産党)

質問

福島第一原発の事故を見れば原発とは共存できない。小諸の特性を活かした自然エネルギー利用への補助金制度はどうか。

市長

太陽光発電補助は普及しやすくなり21年度で終了。薪ストーブ補助は25年度に実施したが、市内産木材の利用促進に結びつかないと判断し廃止した。

質問

薪を調達するシステムづくりを後押しできないか。

環境水道部長

前例はいっぱいある。工夫によつてはスムーズなシステム導入ができると思う。市はそうい

う方向で努力すべきと考える。



薪の原木無償配布

質問

デマンドタクシーは誰もが玄関先から使えるようにできないか。また、利用料金は今までどおりにできないか。

市長

地域の実情に合わせ、セダン型タクシーでの運行も検討していきたい。利用料金は定時路線200円、相乗りデマンドタクシー300円。中学校部活帰りバスは100円で検討。

要望

交通弱者の負担増にならないよう検討していただきたい。

**小諸厚生総合病院の医師確保は
行政が核となり市民協働ですすめるべき！**



早川 聖
(日本共産党)

は行政が核となり、住民の力も借りて医師確保に力を注いだ結果。市の就学・就労支援はあるが、あとは厚生病院にお任せという姿勢ではないのか。

市長

厚生病院の方から要請なり何なりあった場合は、今以上の努力をしないとイケない。でも、今のところ厚生病院の方で何とかしてイケるのではないか。

質問

小諸厚生総合病院の再構築後に、市民が安心して医療が受けられる病院とする最大の課題は必要な医師確保ができるかどうかだ。市長は医師確保について厚生病院と真剣に取り組もうとする姿勢が見られないが。

市長

奨学金や就業資金貸付制度等の支援を引き続き実施していく。

質問

秋田県の厚生病院は危機的な状況の中「病院を守る住民の会」等の運動で新病院が開院。信濃町の信越病院は医師退職で経営危機に瀕したが専任チームが全国を回り医師確保。これら

**農協改革について・天池運動場について・
糠塚園について**



高橋 公
(市誠会)

イオの跡地利用を含め、小諸市のアウトドアスポーツについて総合的に関係団体・市民と意見交換をしてみたいかがか。

教育長

それぞれの施設が老朽化している中で、市民の皆さんのご意見を聞きながら考えていかなければいけないと思っている。

質問

糠塚園の老朽化が問題視されているが、今後の方向性は。

市長

社会福祉協議会より総合的な福祉センターの陳情があったが、老人福祉施設も含めて今後検討したい。

質問

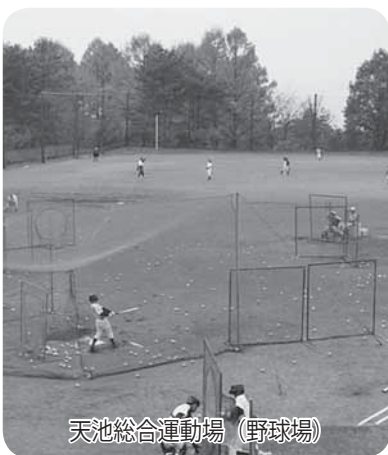
天池運動場埋め立て計画の地元の説明会は十分とお考えか。また、地元と合意できる内容になっているか。

建設部長

意見・要望について国、県と協議を持ちながら、3月中に次の説明会をと考えている。

質問

南城公園プールの将来像・ヴ



天池総合運動場 (野球場)



神津眞美子
(新政会)

小諸駅にエレベーター設置を!! 予算編成の取りくみはどうか

質問

小諸駅のエレベーター設置は市民の願いだ。要望書を市長に提出し、議会へもお願いしたが、どんな計画でいるか。

建設部長

JR、しなの鉄道、小諸市の三者で小諸駅バリアフリー化の基本的合意がされた。三年間の計画で、29年度には完成するようになりつつありやっつけていく。

質問

一般会計の予算案は過去最大の額で、方針の事業費フレームを超えるがどうか。

財政課長

方針に設定した額におさまらなかった部分は課題で、今後は

事業費フレームに沿った予算編成ができるように進めたい。

質問

基本方針では長期財政試算の市債残高は、標準財政規模の200%、約200億円を上限としているが、平成29年度には200億円を超え、その後超えたままの状態が続くが如何か。

財政課長

資源配分方針については、目標にして財政運営をしていくので、より改善をしていくということでご理解いただきたい。

質問

国の借金は既に千兆円を超え、今後これまでどおり交付金が出続けるのか疑問だ。予算編成にあたり、市職員の状況認識はどうか。

財政課長

ご指摘の点については財政課としては非常に強く思っている。職員がそのことを十分理解し、しっかりと認識していかなければいけないと考える。

議員研修会

「住民自治の根幹としての
議会」を創りだす

2月9日

山梨学院大学法学部教授 江藤俊昭先生を講師にお招きし講演をお聴きしました。

議会の根幹となる部分について、議員報酬・定数問題は重要であり、単に減らすのではなく、住民自治をどの様に作り出し充実させていくかを出発点として考えなければならぬ。そのため、住民とともに議論をし、議会がポリシーを持つことが重要である。住人を巻き込み議会活動に関心のない住民にも自治を語る契機となれば、良い方向へ向かうのではないかとのお話でした。

「第9次基本計画の
運用」について

2月20日

公益財団法人日本生産性本部の佐藤亨先生をお招きし研修を

受けました。

第8次基本計画が形骸化していた反省をもとに、第9次基本計画では、行政マネジメントのための計画と位置づけ、計画には目標が設定されるが、その目標値が妥当であるのか、目的(施策) 達成のため、なぜその事業が必要なのか、予算額は妥当であるかを、議会はしっかりとチェックしていくべきであるとのお話しをお聴きし、今後の議員活動にとっても参考となる研修会となりました。

●天池総合グラウンド埋立断念

3月20日の議員全員協議会にて、計画を大きく見直しをする必要が出てきたことから検討を重ねた結果、埋立は断念するとの報告がありました。

●小諸市外二市御牧ヶ原水道組合解散

小諸市、佐久市、東御市で運営されていましたが、小諸市に事業統合がされ平成27年3月31日をもって解散となりました。

2月27日・3月13日
まち再生特別委員会

報 告

**まち再生特別委員会を
設置しました**

2月臨時議会において、小諸市の重要施策であるコンパクトシティによるまちづくりについて、16次議会からの申し送り事項を尊重し、まち再生と活性化の観点から諸課題を調査・検討するため「まち再生特別委員会」を設置しました。

コンパクトシティによるまちづくりは、小諸市の将来を左右する重要課題であり、全議員が共通認識を持つて臨むことが必要であることから、正副議長を除く全議員で委員会を組織しました。

2つの部会を設けました
 3月定例会中、2回委員会を開催し、今後の取り組み方針について協議しました。

委員からは、「まちを小諸市全体と捉え、個々

の諸課題に対して分科会を設置し、総合的な議論が必要だ」「コンパクトシティ構想の実現に向け、これまで多額の投資を行ってきた。それらを活かした中心市街地の活性化に的を絞った議論を行うべき」など多くの意見が出されました。

協議の結果、小諸市が進めるコンパクトシティ構想を活かし、新たな公共交通システムにより、中心市街地への人の流れを創りだし、賑わいを取り戻すためのまちづくりを検討する必要があるとの結論に至り、委員会に新たに「公共交通部会」と、「にぎわいづくり部会」の2部会を設け取り組んでいくこととしました。

「公共交通部会」では、市民が便利に市内を移動できる交通体系について、「にぎわいづくり部会」では、中心市街地に來た人が満足できる魅力あるまちづくりと、賑わいの回復についてそれぞれ取り組んでいきます。

各部会では、選出された正副部会長を中心に閉会中も部会を開催し、調査・研究を進め、定例会において委員会として集約し、結果報告を行っていきます。

にぎわいづくり部会委員

- 部会長 福島 鶴子
 副部会長 早川 聖
 委員 小林 一彦
 丸山 正昭
 竹内 健一

公共交通部会委員

- 部会長 掛川 剛
 副部会長 高橋 公
 委員 土屋 利江
 山浦 利夫
 依田 善典
 中村 憲次
 小林重太郎



傍聴席



加増区 佐藤 朝雄 さん

地元議員の勧めもあって、初めて傍聴席での質問を拝聴させていただきました。それぞれ議員より、提案、質問が出され、天池総合グラウンドの整

備計画の問題、小諸駅エレベーター設置の要望、市庁舎建設工事の進捗状況、デマンド公共交通システムとNPO福祉有償運送との今後に係る連携問題、一般質問の中には教育、学校給食、自然エネルギー利用の問題等、新人議員からは、携わった経験からの質問等どれをとっても大切な課題であります。

小諸市が抱える、まちづくりの大きな問題とどの様に関わっていくかが問われています。柳田市

長の市政運営に懸念する声もある一方、大きな期待も寄せられています。市民にはより丁寧な答弁説明が求められています。市民が安全で安心して暮らしていけるまちづくりに全力で取り組む事をお願い致します。また、議会においても、より多くの住民参加の議会運営を期待しています。今回の傍聴により貴重な経験をさせていただきました。これからも折に触れ出来るだけ傍聴に参加したいと思いました。

編集後記

日々春めいてきて、日も次第に長くなってきました。

朝夕のウォーキングをしながら地域の道を観察しているとフキノトウも見つかりたりするのですが、いつの間にか舗装が剥がれていた波を打ったりしているのもよく見えますね。

これは小諸の厳しい冬を越えた時期によく見る光景で、アスファルトの下で霜柱と舗装との戦いがあったのでしょうかね。

そしていつも負けるのが舗装君の方なのです。

もつとがんばれー、と言いたところですが、人工造物はだいたいの自然には勝てないのが世の常ですよ。

3・11から丸4年が経過し、改めて自然との共存の方法を考え直すなければなりませんね。

さて、この時期の風物詩と言えば、やっぱり卒業式と入学式。お役目柄ご招待を頂き、来賓席から子供たちを見て頂くのですが、ついつい保護者席も見てしまいます。

私は保護者の皆さんよりちょっと上の年代ですが、自分の時はだいたい母親だけだったなあ、と。子供たちみんなが、家族が揃って来てくれることの幸せを感じてくれていて欲しいなあと思う今日この頃です。

(橋)

